

主題：神の奥義の執事

メッセージ 7

旧約の預言の成就における神の奥義としてのキリスト（6）

聖書：イザヤ 55:1-4, 52:13, 詩 110:4, 使徒 13:33-35, エペソ 1:19-23, ヘブル 5:6-10

XIX. キリストは、わたしたちの祝福としての「ダビデのあの聖なるもの、信実なもの」、すなわち「ダビデへの確かなあわれみ」です——使徒13:33-35, イザヤ55:3-4:

- A. 使徒行伝第 13 章 34 節において、パウロはイザヤ書第 55 章 3 節の神の確かなあわれみ（ヘブル語、ケセド）を「ダビデのあの聖なるもの、信実なもの」として解釈しています。使徒行伝第 13 章 33 節と 35 節で彼はまた、これらの事柄が神の長子、聖なる方としての復活したキリストご自身であると示しています。
- B. これはまたイザヤ書第 55 章 4 節において確証されています。その節は、確かなあわれみが、民への証人、指導者、命令する者としてのキリストご自身であることを啓示しています。
- C. ダビデの子孫としてのキリストは、復活の中で命を与える霊としての神の長子と成ったとき、神の永遠の契約の実際である神の確かなあわれみと成りました。それは、わたしたちが神の王国の実際の中で生き、奉仕し、サタンと罪と死を支配することができるためです—— 42:6, 55:3, ローマ 1:3-4, 14:17-18, 5:17, 21, I コリント 15:45 後半。
- D. ダビデのあの聖なるもの、信実なものとは、キリストがわたしたちにとって何であるかのすべての面です。キリストがわたしたちに対してなるものは何であれ、わたしたちにとって偉大な賜物である神のあわれみです——哀歌 3:22-25, 55, I コリント 1:2, 9, 24, 30, 5:7-8, 10:3-4, 11:3, 12:12, 45 後半, コロサイ 1:12, 2:6-7:
 - 1. 赦しと義認の両方ともわたしたちに対する神からのあわれみであって、これらのあわれみは復活したキリストの面です——使徒 13:38-39。
 - 2. 救い主、神の御子、聖なる信実なもの、神の恵み、永遠の命は、一つの、すべてを含む、命を与える霊に調合されました—— 23, 32-39, 43, 48, 52。
 - 3. キリストはすべてを含む霊として、今やすべてを含む「サンドイッチ」のようになられました。わたしたちは、わたしたちの経験と享受のために、彼を食べ、消化し、同化することによって、それにあずかります——ヨハネ 6:57, 63, 3:34。
 - 4. 計り知れない豊富のキリストを消化し、同化するために、わたしたちは自分自身を主に開き続け、内なる霊の感覚に協力し、応答することによって、彼にわたしたちの存在の中にある大通りを得ていただかなければなりません。
- E. 詩篇第 51 篇 1 節で、ダビデは「神よ、あなたの慈愛（ヘブル語、ケセド）に

したがって、わたしに恵み深くあってください。あなたの豊かなあわれみにしたがって、わたしの違犯をぬぐい去ってください」と祈りました——参照、2、6-12、17-18。

1. キリストを神の確かなあわれみとして享受することは、彼を罪と汚れのための血の源泉として、またわたしたちの神化のための生ける水の源泉として享受することです——ゼカリヤ 13:1. イザヤ 55:1, 7. エレミヤ 2:13。
2. わたしたちがキリストを神の確かなあわれみとして享受することができるのは、全焼のささげ物の祭壇（わたしたちの避け所としての絶対的なキリスト）によって予表される、十字架につけられたキリストである彼の中に隠れることにより、また香壇（わたしたちの家としての祈るキリスト）によって予表される、復活させられ、昇天したキリストである彼の中で安息することによります。それは、神のエコノミーの権益のためであり、わたしたちを至聖所の中へともたらし、わたしたちが聖なる都となるためです——詩 84:3. 43:4 前半。

F. イザヤ 55 章 1 節の「水」は永遠の契約とダビデに示された確かなあわれみとしての命を与える霊です。「水」は神がただひとつの面だけでなく、わたしたちが彼を継続して飲むことを通して多くの面において享受できることを啓示しています——I コリント 12:13. ヨハネ 7:38. イザヤ 12:2-3. エレミヤ 2:13. 参照、イザヤ 57:20。

1. 新契約としてのキリストはわたしたちの分け前、救いの杯、わたしたちの祝福の杯です。わたしたちは彼の尊い御名を呼び求めることによって彼をわたしたちの救い、また祝福として飲むことができます——ルカ 22:20. 詩 16:5. 23:5. 116:13. I コリント 10:16 前半。
2. わたしたちが「お金を持っていない」でも、水としての主へと来ることができ、ぶどう酒と乳としての彼を「買い」、彼であるすべてを享受します——イザヤ 55:1：
 - a. 主を享受する代価はわたしたちが持っているものではなく、わたしたちであるものです。わたしたちはわたしたち自身を主に与えて、彼の御名を呼び求めなければなりません——3, 6 節。
 - b. わたしたちはあらゆる点で破産者であり、わたしたちは無であり、何も持たず、何もできず、無であるよりも悪いことを認識するとき、わたしたちは彼の満ちあふれる慰めと赦しを求めてわたしたちの神に戻り、彼にわたしたち自身を与え、彼を求め、彼を呼び求めます。それは、生ける水、新しいぶどう酒、霊の乳としての彼を飲み、わたしたちの霊のパンとしての彼を食べ、天の雨と雪としての彼の言葉を享受するためです——1-11 節。

XX. キリストは高く上げられ、引き上げられ、非常に高くされた方であり、神が彼の足の下に万物を置かれた方（万物のかしらとして昇天され、召会に与えられた方）です——イザヤ 52:13. 詩 8:6-7. エペソ 1:19-23：

- A. 昇天され、超越したキリストから召会に伝達があります（19-23 節、3:20）。彼の超越した伝達には三一の神のすべての豊富な分与が含まれています（1:3-14）：
1. そのようなすべてを含む伝達はわたしたちを肉体と成り、十字架につけられたキリストへと連合されるだけでなく、復活し、超越したキリストとも連合されました。この超越したキリストとの連合の中で、わたしたちはすべての消極的な事柄にまさり、それらすべての上に超越しました—— 21-23 節。
 2. 超越したキリストの伝達は召会、キリストのからだの中へと三一の神が達成し、到達し、獲得されたものをキリストの中で万物をつり上げるために注入します—— 10, 19, 22-23 節。
- B. 超越したキリストの伝達はまたキリストの十二の地位における彼の天の務めの中へとわたしたちをもたらしめます。その地位は彼が到達し、獲得したものであり、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給です。——ピリピ 1:19:
1. すべてのものの主——使徒 2:36。
 2. 神のキリスト—— 36 節。
 3. すべての支配者の元首—— 5:31 前半。
 4. 救い主—— 31 節後半。
 5. 大祭司——ヘブル 4:15. 7:26。
 6. 弁護者—— I ヨハネ 2:1 後半。
 7. とりなす方——ヘブル 7:25。
 8. 新契約の仲保者—— 8:6。
 9. 新約の保証—— 7:22。
 10. 命を与える方——ヨハネ 10:10 後半
 11. 慰め主—— 14:16-17。
 12. 小羊・神——啓 22:1 後半。

XXI. キリストは、メルキゼデクの位による永遠の祭司であり、わたしたちが必要とするものは何であれわたしたちに供給し、わたしたちを極みまで救われる方です——詩 110:4. 創14:18. ヘブル5:6-10. 7:25-26. 8:1-2. 参照、使徒6:4。

- A. わたしたちの大祭司として、キリストは諸召会をはぐぐみ、養っています：
1. 彼は人性において「人の子」として、燭台としての諸召会を顧みており、ろうそくの芯を切り取り、さらに多くの油を加えることによって、諸召会をはぐぐんでいます——啓 1:13. 出 30:7. 参照、ゼカリヤ 4:12-14。
 2. 彼は神性において、彼の胸の金の帯によって表徴されるご自身の神聖な愛をもって燭台としての諸召会を顧みており、ご自身の神聖で奥義的な三つの段階、すなわち、肉体と成ること、包括、強化の務めをもって諸召会を養っています——啓 1:13. ヨハネ 1:14. I コリント 15:45 後半. 啓 4:5; 5:6。
- B. 旧約において大祭司がイスラエルの十二部族の名を肩と胸に担ったように、わたしたちの大祭司としてのキリストは、わたしたちを彼の肩（彼の力）に担い、わたしたちを彼の胸（彼の愛）に抱えています——出 28:9-10, 12, 21, 29。

1. 彼は、「神にかかわる事柄において、あわれみ深い、忠信な大祭司」であり（ヘブル 2:17）、わたしたちの弱さに同情することができる大祭司です（ヘブル 4:15）。
 2. キリストは大祭司としてわたしたちを顧みていますが、わたしたちはみな、彼がどのようにわたしたちを顧みるべきかに関する自分自身の考えと感覚を持っています。多くの時、わたしたちは何がわたしたちにとって最上であるかを知らず、ある事柄に対する理由が何であるかを知りません。大祭司としての主だけがその理由をご存じであり、わたしたちに対する彼の顧みは常に積極的です——ローマ 8:28-29。
- C. 究極的に、大祭司としてのキリストは神の必要と権益を顧みています：
1. 神へのわたしたちの祈りがキリスト、神の王国、神のエコノミーの目標としての神の家に向いているとき、神はわたしたちの祈りを聞かれます——列王上 8:48. ダニエル 6:10。
 2. わたしたちがだれに対して祈るのであれ、わたしたちの祈りは神の権益、すなわち、地上の神の権益としてのキリストと召会を目標として、神のエコノミーを成就すべきです——エペソ 5:32. 6:17-18。
 3. わたしたちは個人的な繁栄のために神を横領すべきではありません。しかし、わたしたちは神の心にしがたって、神のエコノミーのために祈り、生き、神の心にしがたった、神のエコノミーのための人であるべきです。

© 2009 *Living Stream Ministry*